

2026.4～2031.3



生きるを楽しむ
百年の森林に育まれたむら

概要版について

概要版は、計画書全体の中から主な事項をまとめた資料になります。

計画書は、右のQRコードからご覧いただけますので、全体を読んだり、概要版を読んで気になった施策の方向性の具体を確認する、村外の方に西栗倉村の取組をご紹介いただく際の資料とする、など広くご活用いただけますと幸いです。（冊子の計画書が読みたい場合は、役場にご相談ください。）



総合振興計画の構成と位置づけ

総合振興計画とは	村全体の方向性を決める村の最上位計画であり、西栗倉村がどのような将来を目指すのか、その将来のために何をするのかを定める計画となります。
計画の期間	2021年度からの10年間の計画の後期にあたり、2026～2030年度の5年間の計画期間とします。

基本構想

(1)むらの将来像（どんな村でありたいか）

生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら

(2)むらづくりの基本理念（大切にしたい考え方）

①全ての人の「生きがい」を育む	②豊かな自然とのつながりを育む
全ての西栗倉村に関わる人が、その人らしさを認め、活かし、活躍できるむらづくりを目指します。 そして、生きがいを感じ、住み続けたいと思えるむらづくりを目指します。	村の大きな魅力であり資源でもある森林をはじめとした自然を今後も守り育てるとともに、子どもから高齢者まで自然を身近に感じるむらづくりを目指します。
③将来への希望を育む	④村民が関わりあい・支えあう
ICTやIoTなどの基盤とDXに取り組むための環境を整え、村が抱える立地的な課題と向き合い、未来志向の安全で安心な暮らしのできるむらづくりを進めていきます。	多様性を尊重しつつ、支えあい誰一人取り残さないむらづくりを目指します。 また、自立した自治体として健全で安定した財政基盤を確立し、柔軟な行政運営を行います。

(3)人口ビジョン（人口の予測と目標）

目標	2050年に1,000人を維持（現状のままでは817人に減少）
達成すべきこと	20～30代男性 毎年の社会増減 +3人 20～30代女性 毎年の社会増減 ±0人

(4)目標人口の考え方について

①様々な取組ができる活力のある状態（現状の人口構成）を維持

近年の状況（2020～2024年）のまま推移すると極端な少子高齢化状態に陥り、2050年以降もその傾向が加速する見込みです。

一方で、目標人口を達成すると、2050年以降も人口構成を維持したまま緩やかな人口減少が進む見込みとなります。

区分	2020年	近年の状況のまま推移		目標人口を達成できた場合	
		2050年	2070年	2050年	2070年
総人口	1,398人	817人	533人	1,004人	873人
子ども1学年あたり	12人	5人	3人	8人	7人
65歳以上割合	35.4%	42.0%	44.9%	34.1%	30.8%

②頑張れば手が届く（実現可能性のある）目標を設定する

近年は転入出の状況（特に20代・30代）が悪化しています。一方で直近10年間のうち半分の5年間は「達成すべきこと」を上回っており、「2050年に1,000人を維持」という目標は、頑張れば手が届く目標となります。

区分	男性（20・30代）			女性（20・30代）			オレンジ色＝達成すべきことを上回っている年 (20～30代男性：毎年の社会増減+3人、20～30代女性：毎年の社会増減±0人)
	転入	転出	社会増減	転入	転出	社会増減	
2015年	13	8	+5	19	21	-2	
2016年	14	16	-2	23	23	0	
2017年	19	6	+13	17	16	+1	
2018年	17	19	-2	15	21	-6	
2019年	16	12	+4	18	12	+6	
2020年	15	15	0	15	18	-3	
2021年	20	18	+2	12	20	-8	
2022年	15	10	+5	10	16	-6	
2023年	11	17	-6	18	17	+1	
2024年	10	6	+4	12	9	+3	

基本計画

施策体系（全体としてどのように取り組むのか）

人口ビジョンで示したとおり、現在約 1,300 人の村が 2050 年には子どもが半減した 800 人の村となる見込みのため、人口減少対策を優先して取り組むこととします。

そのための「攻めの施策」の柱として、

生活の基本であり、挑戦の村であり続けるための『しごと』づくり

安心して生活ができ、生きるを楽しむを実現できる『ライフスタイル』の提供

対外的に注目される、村の個性を発揮し続けるための『未来への投資』の実行

攻めの施策を実行するため、村全体の生活の基盤としての「守りの施策」

として体系を整理し、攻める所は積極的かつ優先順位をつけて、守る所はより堅実に取組を進めていきます。

村の将来像	生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら
優先して取り組むこと	人口減少対策

攻めの施策		
柱1：しごと	柱2：ライフスタイル	柱3：未来への投資
1、基幹産業への支援 (1) 林業・木材産業振興 (2) 農業振興 2、事業の創出と拡大 (1) 起業・社内ベンチャー支援 (2) 事業拡大支援・村外企業との連携 3、観光と交流の促進 (1) 観光振興 (2) 関係人口の創出・拡大 (3) 村製品の販路拡大	1、子育て支援 (1) 経済的支援の充実 (2) サービスの充実 2、多様な住まいの確保 (1) 住宅の確保 (2) 空き家利活用 3、生涯学習 (1) 生涯学習の推進 (2) 健康づくり・スポーツ・文化振興	1、IU ターン促進・村の PR (1) 移住促進 (2) シティプロモーション推進 (3) U ターン促進 2、脱炭素・生物多様性保全 (1) 再生可能エネルギーの導入・活用 (2) 生物多様性保全 3、教育・保育 (1) 西粟倉一貫教育の推進 (2) 対外的な魅力発信
守りの施策【村を支える基盤】		
1、健康・福祉 (1) 医療・介護 (2) 共生社会	2、地域基盤 (1) 防災・消防 (2) インフラ・交通 (3) 地域コミュニティ	3、持続可能な行財政運営 (1) 財政運営・財産管理 (2) 行政組織運営

攻めの施策【柱1：しごと】

計画書の該当部分は
右のQRコードから
確認できます。



施策内容			
基本施策	具体施策	施策の方向性	計画書 ページ
基幹産業への支援	林業・木材産業振興	百年の森林事業の継続	15
		森林資源の価値向上	
	農業振興	農業の価値向上	16
		農地・農業用施設の維持	
事業の創出と拡大	起業・社内ベンチャー支援	ローカルベンチャーの村	17
		地域おこし協力隊の活用	
		村内での仕事のシェア	
	事業拡大支援・村外企業との連携	村と村内事業者との連携強化	18
		村外企業との連携強化	
		企業版ふるさと納税の活用	
観光と交流の促進	観光振興	中核となる組織づくり	19
		観光の中心となる施設整備	
	関係人口の創出・拡大	アプリ村民票の活用	20
		村に来ていただくための導線構築	
	村製品の販路拡大	ふるさと納税の拡大	21
		ふるさと納税以外の販路拡大	

(具体施策の目標・行動指標、どのように施策を進めていくのかについては、計画書をご確認ください)

施策を進めていく上でのポイント

- 生物多様性の考え方を基に林業・農業・観光など産業を育てていく
- 森林をはじめとした村の資源を最大限活用する
- 村内・村外企業との連携で仕事を創出していく

施策全体の目標とする指標

「自分の望む働き方や挑戦ができる機会があると感じる人の割合」

柱1：しごとを象徴する指標として、毎年度のアンケートにて状況を把握します。

なお、アンケートは、現役世代の方には自身がそう思えるか、ご高齢の方など仕事はしていない方にはそういった村だと思うか、という観点でお聞きすることを想定しています。

攻めの施策【柱2：ライフスタイル】

計画書の該当部分は
右のQRコードから
確認できます。



施策内容			
基本施策	具体施策	施策の方向性	計画書 ページ
子育て支援	経済的支援の充実	支援メニューの充実	23
		ニーズに応じた支援の検討	
	サービスの充実	妊娠期からの切れ目のない支援	24
		地域における心地よい子育て支援	
多様な住まいの確保	住宅の確保	村営住宅の整備	25
		地区との連携	
	空き家利活用	空き家管理法人の設立	26
		補助制度の拡充検討	
生涯学習	生涯学習の推進	あわくら会館の利活用	27
		全世代に学び・発表の機会を提供	
		学びのコーディネート	
	健康づくり・スポーツ・文化 振興	生涯にわたる健康づくり	28
文化を楽しむ・継承する			

(具体施策の目標・行動指標、どのように施策を進めていくのかについては、計画書をご確認ください)

施策を進めていく上でのポイント

- 妊娠出産育児期におけるニーズに応じた切れ目のない支援の提供
- 計画的な住宅整備と空き家の有効活用
- 小さな村でも色々できる・学べる環境づくり

施策全体の目標とする指標

『生活環境や仕事以外の日々の暮らしが豊か（楽しい）と感じる方の割合』

柱2：ライフスタイルを象徴する指標として、毎年度のアンケートにて状況を把握します。
なお、アンケートにおいて感じないと回答された方は、その理由も把握するなど、個別の
施策の状況に対する村民の捉え方も把握していくことを想定しています。

攻めの施策【柱3：未来への投資】

計画書の該当部分は
右のQRコードから
確認できます。



施策内容			
基本施策	具体施策	施策の方向性	計画書ページ
IU ターン促進・村のPR	移住促進	移住窓口の設置	30
	シティプロモーション推進	戦略的な情報発信	31
		情報発信の一元化	
	U ターン促進	高校・大学期における村とのつながり	32
		村出身者のコミュニティづくり	
	脱炭素・生物多様性保全	再生可能エネルギーの導入・活用	カーボンニュートラル（CO2 実質排出ゼロ）の実現
全村に取組を広げる準備			
生物多様性保全		生物多様性の起点となる村に	34
		村の自然環境の保全	
		資源循環の推進	
教育・保育		西粟倉一貫教育の推進	成長に応じた体系的な学びの提供
	地域を学ぶ機会の充実		
	子どもたちの学びや放課後の環境整備		
	対外的な魅力発信	情報発信	36
		留学の受入検討	

（具体施策の目標・行動指標、どのように施策を進めていくのかについては、計画書をご確認ください）

施策を進めていく上でのポイント

- 移住の窓口を整える
- 再生可能エネルギー・生物多様性を村の特徴的なコンテンツとして進めていく
- 多様な学びの選択肢のある一貫教育の提供

施策全体の目標とする指標

『村の出身者や移住希望者に村で暮らすことをおすすめできる村民の割合』

柱3：未来への投資においては、移住者の受入れやIターンなど将来の西粟倉村を見据えた施策と記載していますが、村民が村のことをおすすめできるかという観点は大切であり、役場もこの割合が増えるように取組を進めていく必要があると考えています。

守りの施策【村を支える基盤】

計画書の該当部分は
右のQRコードから
確認できます。



施策内容			
基本施策	具体施策	施策の方向性	計画書 ページ
健康・福祉	医療・介護	未病からのサポート	38
		高齢期の生活を支える支援	
	共生社会	社会参加・活躍の場の提供	39
		重層的支援の提供	
		多文化を受け入れる村	
地域基盤	防災・消防	災害への備え	40
		消防団活動	
	インフラ・交通	インフラの維持	41
		村民の移動支援	
	地域コミュニティ	職員と村民の関わり	42
		各地域の組織	
持続可能な行財政運営	財政運営・財産管理	適正な財政運営	43
		財源確保	
		財産管理	
	行政組織運営	事務の効率化	44
		人材確保	
		村民向けの情報発信	

(具体施策の目標・行動指標、どのように施策を進めていくのかについては、計画書をご確認ください)

施策を進めていく上でのポイント

- 人口減少を踏まえた賢く縮む（スマートシュリンク）という考え方
- 若い世代・未病からのアプローチなど予防中心の医療・介護
- 安定的な行財政運営

施策全体の目標とする指標

『医療・介護・インフラ・交通・防災など生活基盤に不安がないと感じる村民の割合』

守りの施策は、村を支える基盤としており、それに対して村民がどう感じているかを目標として設定します。なお、アンケートにおいて感じないと回答された方は、その理由も把握するなど、個別の施策の状況に対する村民の捉え方も把握していくことを想定しています。